

平成26年6月3日

台湾中央畜産会との定期情報交換会の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、台湾中央畜産会（NAIF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本および台湾の畜産をめぐる情勢等について意見交換を行う場として、原則として毎年度交互に開催しており、今回で5回目となります。

1 日時：平成26年5月28日(水) 10時半～19時

2 場所：行政院農業委員会（台湾）会議室

3 出席者：

NAIF 王政騰（董事長）、李春進（執行長）、王旭昌（企画情報組長） ほか

ALIC 佐藤 純二（理事長）、強谷 雅彦（総括理事）、高橋博人（総括調整役） ほか

4 主要議題と概要

佐藤理事長と王董事長の挨拶の後、ALIC及びNAIFからそれぞれの業務内容を紹介。また、双方から、両国の畜産物の流通協力の可能性や鶏卵輸送システムについて説明。さらに、NAIFは畜産物需給における中国貿易の影響について説明。これらについて、意見を交換。

- (1) 「NAIF及びALICの概要、業務説明」
- ・ 双方から業務について説明。
 - ・ ALICからは、畜産物の需給調整・価格安定対策及び畜産経営安定対策について、制度の背景や運営に関し説明。
- (2) 「日本と台湾の畜産物についての流通協力の可能性」
- ・ ALICからは、我が国の輸出戦略に基づく牛肉及び乳製品の輸出促進について説明。特に、和牛と外国産wagyuとの相違点を強調。台湾向け解禁後は、輸入牛肉（豪州産、米国産）が約95%を占める台湾の牛肉市場に、意欲的に進出したい旨言及。
 - ・ NAIFからは、将来的には日本の消費者ニーズにあった台湾産食肉加工品を輸出したいと発言。
- (3) 「日本と台湾における鶏卵輸送システム」
- ・ 鶏卵生産者から消費者までの輸送方法や輸送容器、鶏卵価格形成について、双方からそれぞれ自国の現状について説明。
- (4) 「台湾の畜産物需給における中国貿易の影響」（NAIF説明）
- ・ 中国との兩岸経済協力枠組協定（ECFA）の現状について説明。
 - ・ 台湾政府としては、TPP交渉や二国間自由貿易協定の締結に積極的に取り組むとともに、食料の安定供給の確保に向け、農業生産基盤の強化や構造改革の促進、農村の持つ多面的機能の発揮に努めている旨を情報提供。

— お問い合わせ先 —
調査情報部国際調査グループ
担当者 西村・植田
電話 03-3583-4389
FAX 03-3584-1246